これは恋ではない。

ひとりの特別な才能を秘める
青年の成長に、自分は手を貸したいのだ。
典子はそう心の内で
言い聞かせたあと、やっぱり自分は
恋をしていると思った。

坂上楠生画『白い異人館』（第58回）

1988年　角川書店

Story

神戸･北野坂の老舗のフランス料理店「アヴィニョン」。夫亡き後この店の経営者となった
甲斐典子のもとに、店に飾った絵画の作者 高見雅道が訪れる。
新しい恋の訪れ、店を狙いしのびよる魔の手、一枚のコインが転がるように物語が動き始める。
さまざまな出来事を乗り越えることで、典子は自立した魅力的な女性へと成長してゆく。
北野を舞台に描かれる恋とサスペンスの物語。
【学芸通信社:新潟日報他 地方紙全13紙 1985年7月～1986年2月連載】

さし絵を担当された坂上楠生氏の言葉

私にとっては、初めての新聞連載小説の、さし絵担当である。宮本輝さんの小説とあって喜んで引き受けた。
舞台は神戸の北野町で、お洒落な宝飾品のお店や、カフェ、ブティック、レストランといった画題には事欠かないシチュエーションである。
連載が始まって、思いも寄らぬハードな仕事ということに気がつくのに時間はかからなかった。
さし絵制作のスピードと、原稿からの挿し絵原画発想との闘いで、時には何も思い浮かばず、時間ばかりが空しく過ぎることもあった。
もう、やめてしまいたいと思うこともしばしばであった。そんな私のことを知ってか、宮本さんの励ましもあり最終回までたどりつくことができた。
「さし絵」というジャンルを軽く考えていた私は、新聞連載小説の仕事を通じて、いかに厳しくハードな仕事であるかを思い知らされた初回の仕事であった。

映画紹介

東宝 1989年 105分

原作
宮本輝

監督･脚本
大森一樹

製作
角川春樹

主なキャスト
甲斐典子　古手川祐子
（第13回日本アカデミー賞優秀主演女優賞受賞）
荒木美沙　桜田淳子
（第13回日本アカデミー賞優秀助演女優賞受賞）
高見雅道　高嶋政宏
加賀勝郎　梅宮辰夫
黄芳梅　室井滋
工藤健一　円広志
葉山直衛　小林昭二

主題歌
カルロストシキ&オメガトライブ「花の降る午後」

4年ぶりの映画出演となった古手川祐子は、初めて逃げ出したいと思ったというほどハードな撮影に耐えて、初の日本アカデミー賞受賞。また、悪女役の桜田淳子は、「撮影前はイヤーな役を引き受けてしまったと思ったが、今後はこの作品をきっかけに、これまでの自分という狭い枠にとらわれない活動を続けていきたい」と当時語っていた。

工藤健一役で出演の円広志氏は、追手門学院大学の7期生であり、宮本氏とは対談をはじめ、ラジオ番組などでも共演している。2004年度の追手門学院大学『大学案内』には、お二人の対談記事が掲載されている。

仕事も恋も あきらめない。

平凡に生きることを望んでいたはずの
主人公典子に、次々と思いもよらない
出来事が降りかかる。
どんな状況でも
自分らしさを失わないヒロインを
見習いたいと思いました。
読んだ後、前向きになれる一冊です。

Review